



アジ研実習生寮の裏庭の紅梅の木。今年も綺麗に花が咲きました。

あじけん通信

2019 MARCH
VOL.135

株式会社きぼう国際外語学院
企画・編集 澁谷 健司

3月に入りました。残念なことにアジ研では風邪等で体調を崩す実習生が目立っています。喉の痛みや咳の症状を訴える実習生、また発熱する実習生もいます。容態によって、医師の診察が必要と判断した時には、受入れ団体に連絡を取らせて頂き、病院へ引率をさせていただいています。体調不良を理由に早退や、欠席を申し出る実習生もいますが、本校では37.0度以上の発熱を早退や欠席の基準とし、喉の痛みや咳、頭痛等の場合は通常は頑張って授業を受けてもらっています。健康第一はもちろんなのですが、中には安易な気持ちで授業を休もうと考える実習生もいるからです。「日本では、少々なことでは会社は休めない」との考えを実習生の皆さんにも持ってもらい、だからこそ健康の自己管理が必要なことを学ぶことも、日本で円滑に技能実習を進めるために大切だと考えています。

授業でも1日3度の食事・早寝早起きの習慣化等、健康面での自己管理を呼びかけています。実習生の皆さんが、日本での実習生生活に必要なことを1つでも多く身に付けられるように、これからも、日本語指導を通して、様々な角度から実習生の皆さんの学習活動をサポートしていきたいと思っております。

あじけんスコープ VOL.72

～町内美化活動へ取り組み～

今月のあじけんスコープは、2月16日(土)に行なわれた実習生による町内美化活動の様子をレポートします。

この活動は、実習生の皆さんが日頃何かとお世話になっている地域コミュニティーに何か貢献できる活動はないだろうかと、自治会の方々にお伝えしたところ、「最近道や空き地にゴミのポイ捨てが多くて困っている。もし実習生の皆さんが定期的にごみ拾いをしてくれたら有難い」とのご意見いただいたことで、実現しました。

当日は、朝9時～10時までの1時間、実習生の皆さんが管理人の高見の指導のもと、沢山のゴミを拾うことが出来ました。

また、通りを行き交う地域の方々と「おはようございます！」と元気にあいさつを交したり、「朝早くからありがとうね」と地域の高齢者の方々に声を掛けられたりするなど、地域との交流を深めることも出来ました。地域の方々、また実習生の皆さんにも好評だったので、今後も月に1回を目安に継続していく予定です。



清掃終了後管理人の高見先生（中央）と記念撮影



通学路のゴミを拾う実習生の皆さん



空き地のごみも拾いました

今月の実習生



今月は、休み時間に教室でドラえもんを読んでいた勉強熱心な？ベトナム人実習生 NGUYEN VAN ANH(アイン)さんを紹介します。

休み時間に漫画！！普通なら怒られてしまいそうな状況ですが、このドラえもん、アインさんにとっては立派な教材。子供向けの漫画なので、表現も比較的容易で、使われている漢字には振り仮名が振ってあるなど、初級日本語の自習教材としては、なかなかの優れ物！

中を見せてもらうと、分からない単語には自分で調べたベトナム語訳が書き込まれているなど、熱心な勉強の痕跡が沢山あり、感心させられました。

私はグエソバンアインです。このドラエモンの本は日本で買いました。ドラエモンには面白い話もあるし漢字もあります。それで毎日読んでいます。日本語と漢字の勉強ができますから、とてもやくにたつて思っています。そしてドラエモンを読んだら楽しい日本の習慣もわかります。アイン。

あじけん流日本語授業

～トラック型ペン立て作製を通した作業手順の表現学習～

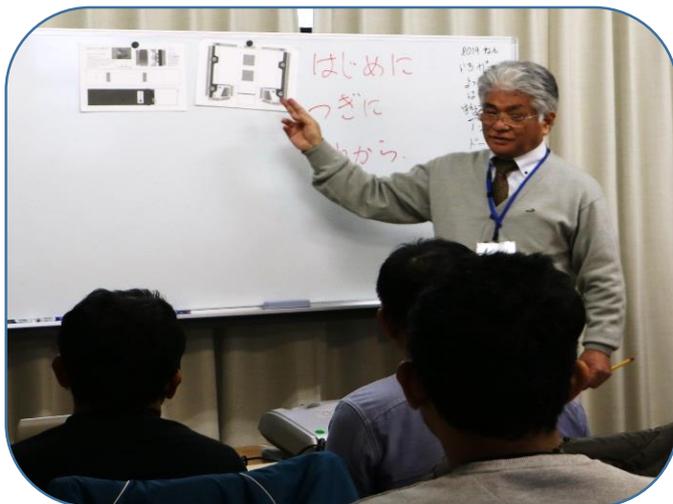


今月は、「はじめに（まず）～して、つぎに～して、それから・・・、さいごに～して！」等の、作業の手順を説明する時に用いられる表現の定着を目指して行なわれた授業の実践例をご紹介します。

今回教材として準備したのは、インターネットでダウンロードして、印刷するタイプのトラック型ペン立ての型紙と、型紙を切ったり、貼り付けたりするのはさみとりのり。また、トラックの飾り付けに用いる色鉛筆です。

まず始めに、講師が実習生全員に、型紙を配ります。そして、ペン立ての組み立て手順を説明します。学習者はこの時、講師の説明を聞きながら、実際に作業をしていきます。ここでは、作業手順の表現だけでなく「組み立てる・切る・折る・張る」等の技能実習で頻繁に用いられると思われる動詞も練習することができます。

その後、講師が作業の様子を見て回り、必要に応じて個別のアドバイスを送ることで、講師と実習生との実践的な会話練習を行なうことが出来ます。また、3人掛けのテーブルのメンバーを異なった国籍の実習生にして、作業で使う道具（はさみ・のり・色鉛筆）を各テーブルに1つずつしか置かないことで、グループ内での道具の貸し借りが必要な状況を作り出す工夫をすると、実習生同士のコミュニケーション活動を促すことも可能となります。ペン立てが完成したら、全員の作品を並べて、作品コンテストを開き、最優秀作品を選ぶディスカッション活動を行なうと、更に実践的なコミュニケーション活動に発展させることも出来ます。



組み立て手順の説明を聞く実習生の皆さん



ここ、よくみてじゅんばんがちがうよ！

作業の手順の巡回確認を通して会話を交わす実習生と講師



タイ人実習生からハサミを借りるタイミングを待つ
フィリピン人実習生



このくみたては、
じょうずですね。

そうですねー。

クラスメイトの作品を評価しあう実習生

※当校ホームページ <http://www.ajiken.jp/> から「あじけん通信」バックナンバーもご覧になれます